

ゴムライニング機器 取扱いについて

輸送について

荷造り時

- ・直接ライニング面に当たらないよう、ロープ等をかけてください。
- ・やむを得ない場合は、布、ゴムなどの緩衝材を当ててください。
- ・全面ライニングの製品やフランジ等外部にライニング面が露出している場合はベニヤ、鉄板等で保護し、ライニング面を損傷させないように十分に注意してください。

運搬時

- ・硬質ゴムの場合は、車の振動などにより割れなどが発生する可能性があるため、慎重な運転を心掛けてください。

積み下ろし作業時

- ・ライニング面・缶体に外傷や衝撃を与えないよう、乱暴な取り扱いをしないように注意してください。
- ・硬質ゴムの場合は、変形により割れなどが発生する可能性があるため、ロープの玉掛け位置を考慮すると共に、状況によりサポート（変形防止用）を取り付けることをご検討下さい。

保管について

- ・直射日光が当たらないように、冷暗場所に保管してください。
- ・やむを得ない場合は、オゾンクラックが発生しやすくなるため、覆いをして、ライニング面に直射日光が当たらないようにしてください。
- ・長期間ご使用にならない場合は、水張り等を行い、劣化しないようご注意願います。

据付作業について

- ・ゴムライニング面に、工具・器物を落としたり、鋏を打った履き物のままで上らないでください。
- ・火災に原因となりますのでゴムライニング面には、グラインダー、溶接等の火花やタバコの火を落とさないでください。
- ・ゴムライニングに近接した場所の金物の溶接は、ゴム接着剤の劣化により浮き、膨れが発生するため、絶対に行わないでください。
- ・作業はしご・脚立等をライニング面に置く場合は、脚に布・ゴム・板等を当てて、ライニング面に傷がつかないように注意してください。

メンテナンスについて

- ・納入（運転開始）後1年程度を目安に、解放点検を実施されることをお奨めいたします。
- ・その後については、定期的（3～4年）毎に解放点検を実施し、ゴム等に異常がないことを検査確認されることをお奨めいたします。

推奨検査項目

- ピンホール検査
- 膜厚検査
- 硬度検査
- 外観検査